

## 研究報告2022リーフレット

研究概要

授業づくりのプロセス  
単元シート  
事後研究会

授業実践



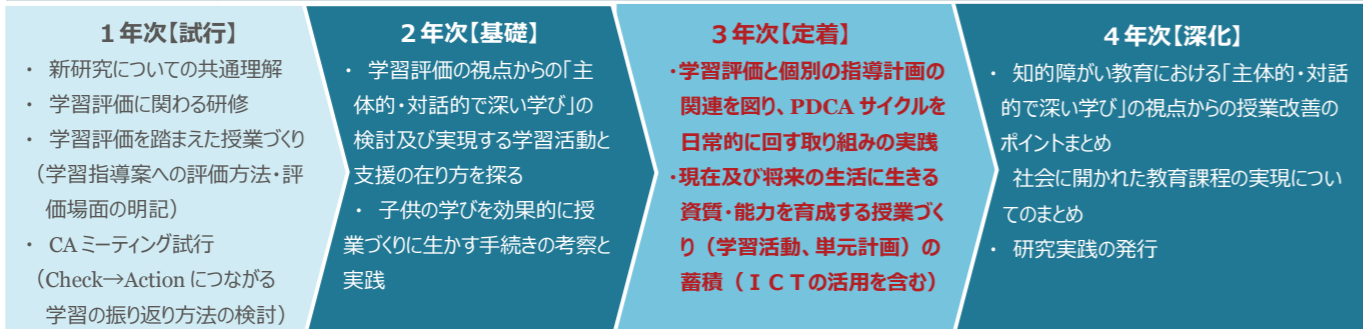
一人一人が  
自己の学びを実感し  
生活していく姿を求めて

— 指導と評価の一体化のための  
授業づくりのプロセス —

## 1. 研究計画（3年次／4年計画）

研究内容（1）知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの在り方を探る。

研究内容（2）授業実践と学習評価の手続きを明確化する。



一人一人が自己の学びを実感し生活していく姿・研究の日常化へ

## 2. 前年度の成果と課題

### （1）成果

#### 資質・能力の三つの柱について

「知識及び技能」については、学習活動を設定する際、「知的障害教育のある児童生徒の教育的対応の基本」（2）、（4）、（7）に留意した活動を設定することや、「思考力、判断力、表現力等」は、「知識及び技能」と双方向に関連しながら育成されるものであり、それらの関連の仕方を踏まえた学習活動、単元計画、評価計画の設定が必要であると考えられた。また、「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒一人一人の学習上の特性が関連していることも考えられた。

#### 主体的・対話的で深い学びについて

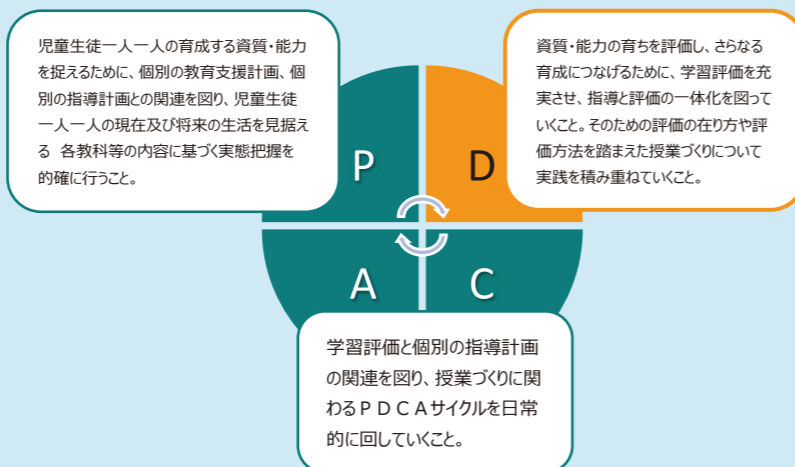
主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善は、資質・能力を育成するための手段である。児童生徒一人一人の学習上の特性を踏まえた授業づくりを行い、学びの姿を振り返ることで授業の質を高めていくことが大切である。

#### 子供の学びを効果的に授業づくりに生かす手続きについて

CAミーティング（研究報告2021リーフレット参照）により、授業改善の手立てが明確になり、以後の単元に活かして効果的な授業づくりにつなげることができた。また、児童生徒の情報共有や共通理解、有効な手立ての共通理解に役立った。

### （2）課題

PDCAサイクルに沿って、課題を右図のように整理した。特に研究での中心的な課題として、資質・能力の育ちを評価し、さらなる育成につなげるために、学習評価を充実させ、指導と評価の一体化を図っていくこと。そのための評価の在り方や評価方法を踏まえた授業づくりについて実践を積み重ねていくこと。（研究の中心）【DからCへ】が考えられた。



### （3）2年次の総括

前年度の課題を解決し、研究主題に迫るためには、授業づくりだけにとどまらず、実態把握から目標設定、授業実践、学習評価、改善までの一連の流れを把握し、それぞれをつなげること、サイクルを回すことが必要であると考えた。そのためには、教務部と連携し、個別の指導計画をはじめとした各種計画への還元及び改善の組織的な取り組みをすすめていくことが必要である。今年度は授業づくりを中心とした実践を積み重ねていく中で、指導と評価の一体化をさらに進めていく。具体的には、「授業づくりのプロセス」を共有し、それぞれの授業に関連する各教科等の内容のまとめりごとの評価規準を作成し、授業の中で実際に評価できるための授業づくりについて検討する。

## 3. 今年度の研究内容及び研究方法

【重点1】学習評価と個別の指導計画の関連を図り、PDCAサイクルを日常的に回す取り組みの実践

「何を学ぶか」の明確化と「何が身についたか」の把握・活用

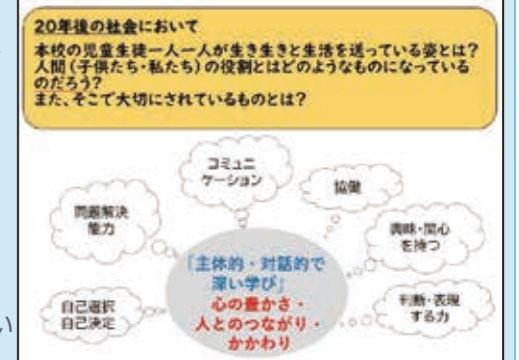
【重点2】現在及び将来の生活に生きる資質・能力を育成する授業づくり（学習活動、単元計画）の蓄積

（ICTの活用を含む）「どのように学ぶか」の事例の共有と発信

## 本研究の土台

### 本研究の背景

平成29年4月の学習指導要領の公示に際し、本校では子供一人一人に学校教育を通してどんな力を育成したいのか、どんな教育を行っていくべきかを話し合い、一人一人が自分らしさを発揮し、生き生きと生活するための様々な力を育成していきたいことを確認した。このことは、学習指導要領が示す、自立と社会参加に向けた資質・能力の育成という考え方も合致している。学習指導要領を踏まえ学校教育目標「みずから学び、かかわり、はたらく人」の具現化を図っていく上で学びの主体、未来の創り手は子供自身であることを全職員で確認し、本研究をスタートしている。



### 本校の研究実践

本校では授業を子供の視点から考え、その子らしさを大切に主体的な姿を求めて、子供の行動面だけではなく、思考や心理等を含めて教師が見取ることを大切に実践を積み重ねてきた。この成果を生かし、学習評価において、子供の姿を分析的に捉える上で、行動面だけではなく、子どもの思考や心理等を含めて教師が見取り、複数の教員で多面的に捉えることを重視している。

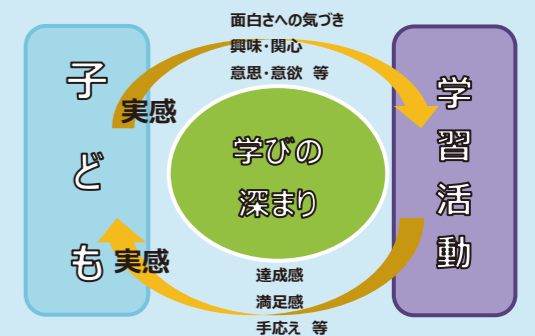
### 研究主題について

「自己の学びを実感し」とは

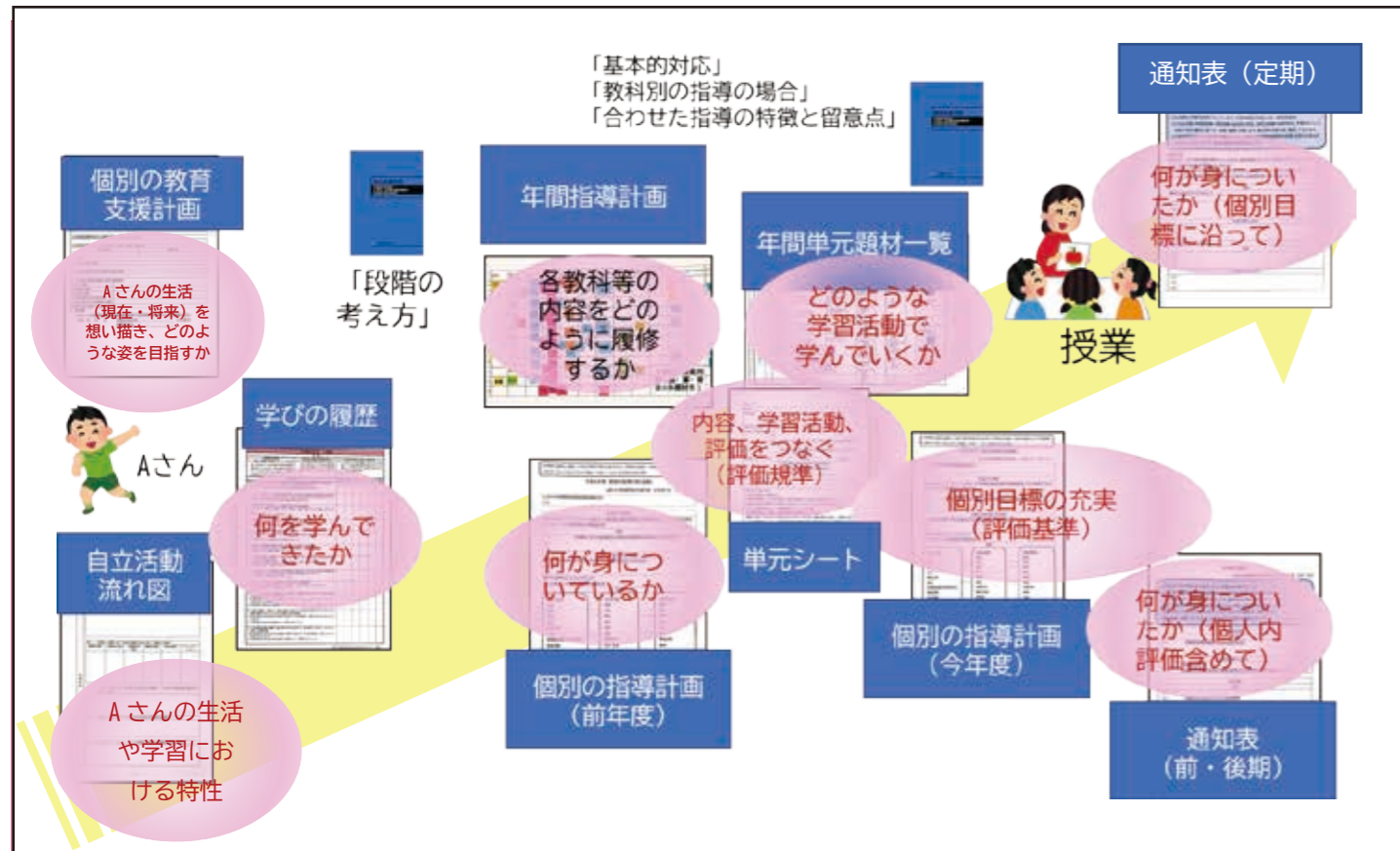
子供が自ら興味・関心等の実感を持って学習活動に取り組み、達成感や満足感等の実感を持つ中で、学びが深まっていくこと。

「生活していく姿」とは

子供が次の学びに向かっている姿、学んだことを生かそうとしている姿。



# 授業づくりのプロセス



今年度は、本校における授業づくりに関わる取り組み（各種書類、計画等）の関連を“見える化”した「授業づくりのプロセス」（上図）を職員で共有し、実践を積み重ねる中で確認し立ち返りながら授業づくりを行った。本校では、それぞれの取り組みの目的やつながりを意識し、「個別の教育支援計画」「自立活動（流れ図）」作成し、「学級の履歴」シート（p5）で「何を学んできたか」を確認し、各学部で検討した「年間指導計画」をもとに、どのような学習活動で学んでいくかを考えていく（「年間単元題材一覧」）。検討の際は学習指導要領の関連する部分（「段階の考え方」等）をおさえながら、各単元・題材における授業づくりにあたっては、取り扱う各教科等の内容、学習活動、評価をつなぎ、単元計画を工夫し、一人一人の指導目標を充実させるために、「単元シート」（p6-7）を作成し、授業を検討し実践している。

## 「学びの履歴」について

「学びの履歴」には、各教科等の内容のまとめごと、履修したものを○、習得したものを◎で記載している。

本校では児童生徒一人一人について、学習状況や既習事項等を踏まえた実態としての段階を把握している。

（福島県特別支援教育センターの様式を参考に本校用に作成）

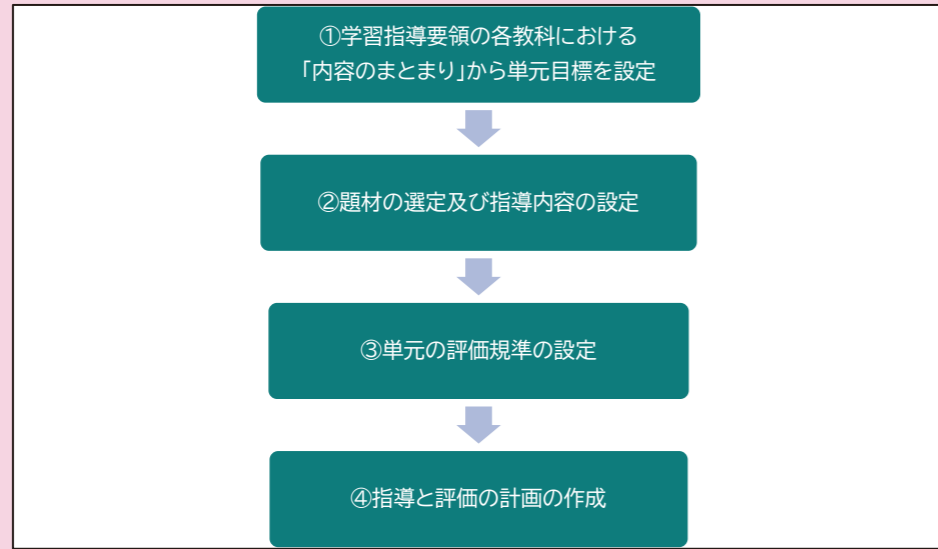
中学部【保健体育】1段階			
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	目標
ア 各種の運動の楽しさや喜びに耽れ、その特性に応じた行い及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	ウ 各種の運動に楽しんで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に導んで取り組む態度を養う。	
内容			
A 体づくり運動【※3学年間にわたって取り扱うこと】 ア 体づくりの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを継続する能力などを高めたりすること。 イ 体づくりの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 体づくりの運動や体の動きを高める運動に楽しんで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。			
B 器械運動 ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに耽れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械・器具を使った運動に楽しんで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。			
C 陸上運動 ア 陸上運動の楽しさや喜びに耽れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に楽しんで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。			
D 水泳運動 ア 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに耽れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。			
前年度	1学年	2学年	3学年
		70	70
		70	70
		70	70
		70	70

## 「年間単元題材一覧」について

年間単元題材一覧は、どのような学習活動で学んでいくかを記載したものである。教科別の指導、各教科等を合わせた指導共に、取り扱う各教科等の内容を明記している。

月	自立活動	道徳	生活単元学習	作業学習	国語	数学	音楽	保健体育	総合的な探究の時間	特別活動
4	※ 個別の指導目標や具体的な指導内容を踏まえて学習を行います。	※ 道徳科における内容項目を踏まえて学習を行います。	「学習指導要領を基に目標を設定しよう」 社・英 「生活の文化」 「食生活の文化」 「食生活の文化」 「食生活の文化」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」	総合的な探究の時間 SDGsにかかわる「12」 「12」 「12」	入学式 新任式 始業式 終業式 修学旅行 修学旅行 修学旅行
5			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
6			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
7			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
8			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
9			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
10			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
11			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
12			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
1			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
2			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		
3			「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」 「自分たちの生活の文化を考えよう」	「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」 「みんなが喜びを感じる活動を作ろう」	「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」 「国語を楽しむよう」	「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」 「算数を楽しむよう」	「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」 「音楽を楽しむよう」	「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」 「保健体育を楽しむよう」		

本校では、全ての授業について、①から④の手順で、単元シートを作成している。



### ① 学習指導要領の各教科等における「内容のまとめ」から単元目標を設定

はじめに、単元目標を設定する際、単元で取り扱う学習指導要領の各教科の「内容のまとめ」を確認する。

### ② 題材の選定及び指導内容の設定

一人一人の指導目標、指導内容を設定するにあたっては、年間指導計画に基づく、その授業で取り扱う段階の目標、内容を基に、学びの履歴シートで把握した実態としての段階の目標、内容を参考に生活年齢を踏まえて設定する。

このとき、学習指導要領を根拠として、中学部は小学部の目標及び内容の一部または全部、高等部は小・中学部の目標及び内容の一部を扱うことができることに留意する。

単元シート【高等部 音楽（器楽）】

題材名	みんなで心を合わせて演奏しよう
題材の目標	【高1段階】 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識) ・聴衆を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付ける。(技能①) ・音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。(技能②) ・各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(技能③) (2) 音楽表現についての知識や技能を身に付けたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつ。 (3) 創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。 ※生徒一人一人の指導目標及び指導内容については、上記高等部段階の目標及び内容を参考に、実態に応じて小学部・中学部の目標及び内容を参考にして、生活年齢等を踏まえて設定する。
実態としての段階 (学びの履歴より)	【中2段階】 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識) ・簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能を身に付ける。(技能①) ・打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを覚悟して、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付ける。(技能②) ・友達や楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。(技能③) (2) 音楽表現についての知識や技能を身に付けたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつ。 (3) 思いや意図にふさわしい表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。

①学習指導要領の各教科における「内容のまとめ」から単元目標を設定

②指導内容の設定

### ③ 単元の評価規準の設定

本校では、単元目標と単元の評価規準は、文末の部分のみ異なり、それ以外の部分は共通している。各教科等によって、評価規準の作成手順等は違いがあるため、学習評価参考資料を丁寧に確認し、作成している。

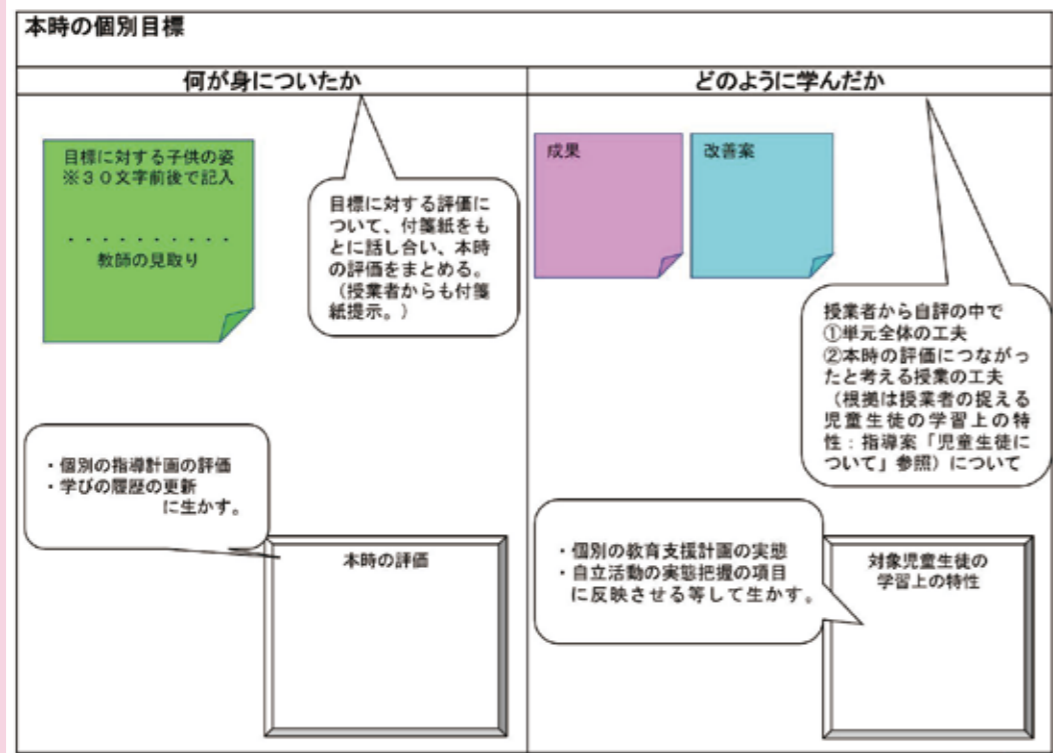
③単元の評価規準の設定	
評価規準	(1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(知識) ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、節奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。(技能①) ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。(技能②) ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(技能③) (2) 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫している。 (3) 創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 <共通事項> ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

### ④ 指導と評価の計画の作成

単元をととして、資質・能力の三つの柱を育成するために、児童生徒の学習上の特性を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点から、単元を検討する。このとき、学習活動と評価の計画を関連させる。ひとつひとつの授業の目標を焦点化することで、単元を通して、評価の場面を精選する。

④指導と評価の計画の作成		学習活動	評価計画			
教時	月日(曜日)		目標A	目標B	目標C	目標D
1	10/5(水)	【曲について知ろう】 ・マーチングの演奏動画を観て、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・みんなで合奏すること、録画した演奏を昼の放送で放映することを知る。 ・みんなでどんな演奏にしたいかについて、思いを伝え合う。テーマを設定する。	(2)	(2)	(2)	(2)
2	12(水)	【楽器を知ろう、鳴らしてみよう】 ・教師の節奏を聴いたり、実際に楽器を鳴らしたりして、基本的な楽器の扱い方を知る。 ・担当したい楽器を考え希望用紙に書く。	(1)技②	(1)技②	(1)技②	(1)知
3	14(金)	○個人練習、パートグループ練習(各教室) 【リズムや速度を合わせよう】 ・楽譜を見ながら、音階やリズムを言葉に	(1)技①	(1)技①	(1)技①	(1)知

1. ボードを活用した協議



事後研究会は、対象児童生徒を一名設定し、「何が身についたか」「どのように学んだか」について話す。事後研究会での授業を振り返る視点は、普通の授業における、学習評価や指導の評価の視点とも共通している。

2. 付箋紙の記入と協議について

【「何が身についたか」の付箋（黄緑色）】

対象児童生徒の本時の目標に対して、授業で見られた「子供の姿」と、その時の「教師の見取り」を付箋紙に記入し、それを基に「本時の評価」を話し合い、まとめます。

【「どのように学んだか」の付箋（ピンク色・水色）】

本時の評価につながった授業の工夫について、成果と課題を付箋紙に記入し、話し合い、対象児童生徒の学習上の特性についてまとめます。

3. 評価から改善のサイクルについて

「何が身についたか」の話し合いで出された「本時の評価」は、個別の指導計画の評価や学びの履歴の更新に生かすことができる。「どのように学んだか」の話し合いで出された成果と課題は今後の単元・題材の改善へ、対象児童生徒の学習上の特性は個別の教育支援計画の実態や自立活動の実態把握の項目に生かすことができる。

取り扱う内容のまとめり 小3段階 B図形ア (ア)㉗、(イ)㉘

単元目標	
知識及び技能	・ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉える。
思考力、判断力、表現力等	・身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりする。
学びに向かう力、人間性等	・身の回りにあるものの形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味を持って学ぼうとする。

- 評価規準
- (1) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えている。
  - (2) 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりしている。
  - (3) 身の回りにあるものの形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味を持って学ぼうとしている。
- 対象児童の個別の単元目標(上記の評価規準をもとに、児童の実態や学びの履歴で把握している学習段階をもとに設定)
- (1) 角(かど)が4つ、辺(まっすぐなせん)が4つの形が四角という形のきまりが分かる。
  - (2) 角の数や辺の形状、数を基に、形を四角とそれ以外に分ける。
  - (3) 形について学ぶ楽しさやよさを感じ、興味を持って学ぼうとする。

単元計画		
1 2	「かたちであそぼう」 ・身の回りの物に見立て、空き箱等を組み合わせる。 【主】	7 本時 8 9
3 4	「かどをさがそう」 ・「かど」について知る。 ・身の回りの物から「かど」を探す。【深】	10 11
5 6	「かたちをつくろう」 ・マグネットバーを組み合わせ、四角をつくる。【対】	

評価	
対象児童の本時の目標と評価	
目標	角の数や辺の形状、数を基に、形を四角とそれ以外に分ける。
評価	「角」、「辺」、「4つ」という言葉を意識することができた。形のきまりを基に、90度の直角の形であれば、四角だと考えることができた。
本時の授業についての評価(児童の様子から)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し取り組み、確認した「四角形は、角が4つ、まっすぐな線が4つ」と四角の決まりを覚えた。</li> <li>・根拠を1つずつ確認し、自分の考えを確かめたり自信を持ったりするための教師とのやり取りが効果的だった。</li> <li>・角のことを「チクチク」と表現するなど、前の学習で体験したことが学習の中で生かされていた。</li> <li>・自分と異なる友達の考えによって考え方を広げたり、自分の考えを根拠ある物にするためにも児童の発言や考えを視覚化したりすると良い。</li> <li>・辺や角の数をクイズの図に自分で書き込めるようにすることで、自分の考えを見返すことができるとともに、向きを変えたりしながら四角かどうかを考えることができたと思う。</li> <li>・今後、身の回りの物にも学習したことを繋げられるようになっていく。</li> </ul>	

## 授業実践② 中学部 保健体育科「陸上運動（短距離走）」

取り扱う内容のまとめり 中学部保健体育科 1 段階 C 陸上運動

単元目標	
知識及び技能	・ 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けることができる。
思考力、判断力、表現力等	・ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを、他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	・ 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとする。

### 評価規準

- （1）陸上運動の行い方が分かっている。（知識）
  - ・ 陸上運動に関する基本的な動きや技能を身に付けている。（技能）
- （2）陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしている。（思考・判断）
  - ・ 考えたり工夫したりしたことを他者に伝えている。（表現）
- （3）陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。

対象生徒の個別の単元目標（上記の評価規準をもとに、生徒の実態や学びの履歴で把握している学習段階をもとに設定）

- （1）走る運動における技能の高まりや競争の楽しさや喜びを味わい、腕や足の動かし方など、基本的な体の動かし方が分かり、腕や足の動かし方など、基本的な動きや技能を身に付けることができる。
- （2）走る運動での自分の課題を見付け、その解決のために何が必要か考えたり、工夫したりしたことを教師や友達に伝えることができる。
- （3）走る運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に気を付けたりしながら、最後まで楽しく運動しようとする。

### 単元計画

1	・ 50m走を行う。 ・ 走る様子を動画で撮影する。【主】	8	・ 50m走を行い、タイム測定をする。 ・ 練習を経て、タイムの変容を見る。【主】
2	・ 50m走を行う。 ・ タイム測定を行い、自分のタイムを知る。【主】	9	・ 映像を使い、速く走るためのポイントを確認する。
3	・ 映像を使い、速く走るためのポイントを知る。	10 本時	・ 課題ごとのグループに分かれ、練習を行う。 ・ 走る姿を動画撮影し、グループの友達と見合う。【対】
4	・ 速く走るためのポイントに沿って、走る練習を行う。	11	・ 50m走を行い、タイム測定をする。 ・ 練習を経て、タイムの変容を見る。【主】
5	・ 1 教時目の 50m走の動画をグループに分かれて見て、「スタートの姿勢」「足の動き」「うでぶり」の視点で自己の動きを分析し、もっと速く走るためには何の練習に組み込めばよいか考える。【対】	12	・ 各自の課題解決にむけての動きで練習する。
6		13	・ 課題ごとのグループに分かれ、練習を行う。 ・ 走る姿を動画撮影し、グループの友達と見合う。【対】
7	・ 課題ごとのグループに分かれ、練習を行う。 ・ 走る姿を動画撮影し、グループの友達と見合う。【対】	14	・ 50m走の記録会を行う。【深】

### 評価

対象生徒の本時の目標と評価	
目標	速く走るために、どのように足を動かせばよいか考えたり、動きや言葉で表現したりする。
評価	膝の高さに着目し、自分なりの速く走るための動きを考え、動きを言葉や動きで表現できていた。
本時の授業についての評価（生徒の様子から）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を活用して、走る姿を撮影し振り返ることで、自分や友達の走る姿の変化や良いところを見付ける姿につながった。</li> <li>・ 生徒同士が話し合う時間を設定することで、新たな視点で考えたり、自分の動きに自信を持ったりする姿につながった。</li> </ul>	

## 授業実践③ 高等部 音楽科「みんなで心を合わせて演奏しよう」

取り扱う内容のまとめり 高等部音楽科 1 段階 A 表現（知識イ（イ）㊦、技能イ（ウ）㊦㊧㊨、思考力、判断力、表現力等イ（ア）

単元目標	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。（知識）</li> <li>・ 範奏を聴いたり、八長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付ける。（技能）</li> <li>・ 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付ける。（技能）</li> <li>・ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。（技能）</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	・ 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する。
学びに向かう力、人間性等	・ 創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。

### 評価規準

- （1）曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。（知識）
  - ・ 創意工夫を生かした表現をするために必要な、範奏を聴いたり、八長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。（技能）
  - ・ 創意工夫を生かした表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。（技能）
  - ・ 創意工夫を生かした表現をするために必要な、各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。（技能）
- （2）音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。
- （3）創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

対象生徒の個別の単元目標（上記の評価規準をもとに、生徒の実態や学びの履歴で把握している学習段階をもとに設定）

- （1）曲の雰囲気や音色、速度、リズム等の要素との関わりについて気付く。（知識）
  - ・ パートの範奏や主旋律を聴いたり階名を振った楽譜を見たりして、リズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。（技能）
  - ・ テーマに合った音色や響きを考え、木琴を使って演奏する技能を身に付ける。（技能）
  - ・ 打楽器や主旋律の音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。（技能）
- （2）音色やリズム、速度、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感受した曲の雰囲気との関わりについて考え、表現を試したり工夫したりする。
- （3）創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、木琴で表現することを楽しみながら自ら活動に取り組んだり、友達と励まし合いながら活動したりする。

### 単元計画

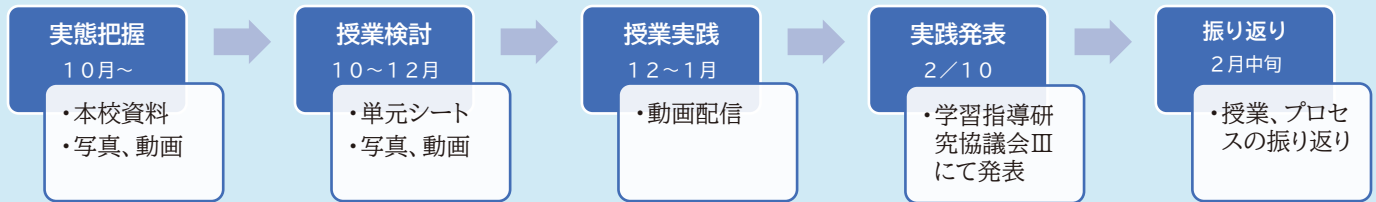
1	・ マーチングの演奏動画を観て、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・ みんなでどんな演奏にしたいかを話し合い、合奏のテーマを設定する。【主】	7 本時	・ パートグループでの演奏の様子を撮影し、映像を見たり聴いたりして、どのようにするとテーマに合った演奏になるかについて話し合う。話し合ったことを試しながら演奏を工夫する。【対】
2	・ 教師の範奏を聴いたり、実際に全ての楽器を鳴らしたりして、基本的な楽器の扱い方を知る。【主】	8 9	○全体練習 ・ 友達の楽器の音を聴きながら演奏する。【深】
3	○個人練習、パートグループ練習 ・ 楽譜を見ながら、音階やリズムを言葉にして覚える。 ・ 楽譜やパート毎の範奏の映像を参考にしながら、旋律やリズム、速度などを覚える。【対】	10	・ 全体での演奏の様子を撮影し、映像を見たり聴いたりして、どのようにするとテーマに合った演奏になるかについて、音楽を形づくっている要素を基に思いを伝え合う。話し合ったことを試しながら工夫する。【対】【深】
4			・ 合奏する。
6	・ 楽器の基本的な扱いを意識して、楽器の音色や響きに気を付けて演奏する。	11	・ 合奏について振り返る。
		12	・ 曲想と音楽の構造との関わりについてまとめる。

### 評価

対象生徒の本時の目標と評価	
目標	演奏の音色やリズム、速度を聴き取り、どのようにしたらテーマに合った表現になるか、表現の仕方を試したり、工夫したりする。
評価	元気な音色を出すために、弾むように演奏する方法を考え、木琴の鍵盤の叩く位置やマレットの動かし方を工夫した。
本時の授業についての評価（生徒の様子から）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の課題を焦点化し、課題について教師とやり取りしたり、友達の様子を見たりしたことが、自分で試行錯誤する姿につながった。</li> <li>・ 自分たちの演奏を動画に撮ってすぐに見返すことで、客観的に自分の演奏の様子を振り返り、演奏を工夫する姿につながった。</li> </ul>	

# 「協働参画者」とのオンラインを活用した授業検討会

本校の「授業づくりのプロセス」に沿った授業づくりを外部の方（協働参画者）にも体験いただきながら、アイデアやご意見をいただき、共によりよい授業づくりについて考え、深められる場を目指した取り組みである。コロナ禍・働き方改革への対応が求められる中での新しい現職教育（OJT）の在り方として、モデルとなる取組の提案も兼ね、今年度初めて実施した。各学部で「授業検討の視点」を設定し、実際に本校で使用している資料を使いながら、オンライン（Zoom）を活用した動画等による実態把握、授業検討を行い、本校職員が実践したものを今年度の学習指導研究協議会Ⅲで発表した。



対象授業	授業検討の視点
小学部 音楽	対話的な学びに焦点をあてた授業づくり
中学部 音楽	実態差のある学習集団の授業づくり
高等部 国語	授業づくりにおける学びの履歴を踏まえた指導内容の設定



## 研究のあゆみ 2022

- 7月 学習指導研究協議会Ⅰ（オンラインで実施）【本紙 授業実践①②】
  - 11月 学習指導研究協議会Ⅱ（本校来校参加およびオンラインを同時に実施）【授業実践③】
  - 2月 学習指導研究協議会Ⅲ（オンラインで実施）
- その他、各教員が授業実践を行い、校内研修会の際に実践紹介を行った。

### 【研究アドバイザー】

国立特別支援教育総合研究所 研究企画部 総括研究員 横尾 俊 氏

### 【共同研究者】

山形大学	大学院教育実践研究科	教授	三浦	光哉	氏
	地域教育文化学部	教授	大村	一史	氏
		准教授	本島	優子	氏
		准教授	池田	彩乃	氏

山形大学附属特別支援学校

〒990-2331 山形市飯田西三丁目2番55号

TEL 023-631-0918

本校研究実践についての詳細（指導案等）は、本校ホームページをご覧ください（右記QRコードより）。

